

「フリーWi-Fi と多言語対応について考えるシンポジウム」の開催について

一般社団法人ゲートウェイ・アップ・ジャパン

平成 27 年 9 月 1 日

スマートフォンの普及により、地域住民の生活情報基盤が大きく変化してきています。こうした中、少子高齢化はもとより、外国人観光客や留学生・研修生の増加、国際情報発信や外国人購買力誘致などへの対応を、情報技術の革新に合わせてどう進めていくのかは、広く地域社会が直面している課題です。

地域の実情に応じた課題解決のためにスマートフォンを用いることは、技術的にそれほど難しくはありません。しかし、自治体・地域の情報発信力・伝達力が低いコストと高い効率性をもって実現することは容易ではありません。情報環境の変化に柔軟に対応しつつ、多彩なメディアをトータルにデザインする力が今こそ求められています。

私たち一般社団法人ゲートウェイ・アップ・ジャパン（GAJa）は、そのデザインに具体的な形を与えようと、本年6月に活動を開始しました。関西は、大きな自然災害を経験しており、また、たくさんの外国人観光客を既に迎え入れていて、多数の外国人が地域社会で共生している場であり、GAJaとしても学ぶべきことがたくさんあります。このため、今般、近畿総合通信局のご後援や、在関西の企業のお力添えをいただいて、本シンポジウムを下記のとおり計画いたしました。

GAJaは、外国人旅行者にフリーWi-Fi サービスを提供するためのアプリのダウンロードを本年8月24日から開始しました。また、大地震等が発生したときに大使館や領事館が自国民の安否確認を行えるシステム開発にも取り組んでいて、本年中にも全大使館等に無償開放します。多言語対応の災害情報提供システムも全国の自治体等が来年4月から利用できるよう、準備を進めています。大地震の発生直後にも安否情報等を伝えられるアドホックネットワークの構築や、自治体から住民への直接広報の手段の確保のために、バッテリーを持つ車載ルーターの普及と活用にも取り組んでいます。手元のスマートフォンでバスの近接を簡単に確認できる、いわゆるバスロケシステムを安価に導入できるようにして路線バスにも普及し、車載ルーターの普及を加速します。世界に向けた情報発信や居住外国人との共生のための地域の翻訳力を高める活動も始めています。

いわゆるガラケーからスマートフォンにユーザの端末は変わりゆく中、そこに共通アプリ基盤を形成し育てること、そして災害情報をはじめとする行政情報が一人でも多くの住民に届くようにし、地域経済の活性化にも役立てていくことを目指して、GAJaは、活動してまいります。その活動の一環として、地域の問題解決に実践的、地域横断的に役立つ情報を、全国の自治体や地域が共有できるよう、本プログラムの内容を企画いたしました。

参加は無料ですので、多数のご参加をお待ちしております。

記

- 1 開催日時：9月11日（金） 10:00 ～ 17:30（開場は9:30 予定）
- 2 開催場所：ジーベックホール 兵庫県神戸市中央区港島中町 7-2-1（中埠頭駅[出口]から徒歩2分）

<http://www.xebec.co.jp/access/>

3 プログラム：別添

4 参加申し込み方法：GAJa 事務局ホームページをご覧ください。 <http://www.ga-ja.com/>

「フリーWi-Fi と多言語対応について考えるシンポジウム」プログラム

来賓挨拶（近畿総合通信局）

事務局説明—GAJa 活動全体図と本日の演目について

Part 1（10:15～12:20）：GAJa の代表的な取り組みの現在を紹介

1-1 外国人旅行者のフリーWi-Fi 環境を上げる取り組みの事例（サービス連携分科会関連）—30 分

プレゼンター：全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会（全旅連）

- ・全旅連における FreeWi-Fi の取り組み
- ・京都から開始した宿泊施設向け新世代 FreeWi-Fi、コカ・コーラー社との取り組み
- ・それらのインフラを使った「おもてなしアプリ」魅力向上のアプローチ

1-2 各地の情報を国際発信していく取り組みの事例（アイデア・形分科会関連）—30 分

プレゼンター：DTS

- ・スマートフォンアプリと Web アプリケーションとテレビ放送等を組み合わせる「おもてなし」メディア戦略
- ・他国ではなく日本を旅先に選択してもらうためのポイント付与システムの構築
- ・帰国後には日本各地のファンとして育てていくための情報発信プラットフォームの構築

1-3 地域活性のスパイラルを形成する取り組みの事例（オープンデータアプリ分科会関連）—30 分

プレゼンター：富士通ネットワークソリューションズ

- ・全国で同一サービスを提供できる共通アプリ基盤を形成して地域発の取り組みを応援
- ・南空知郡や鎌倉市での取り組み事例を紹介
- ・GAJa の活動として取り組もうとしている課題と解決アプローチ

1-4 地域コンテンツの翻訳等を推進する「翻訳 Bank」プロジェクト（Proud Project 分科会関連）—

15 分

プレゼンター：事務局

- ・外国人の宿泊客や来店者に Wi-Fi アクセスポイント利用権を付与してフリーWi-Fi を拡張する取り組み
- ・フリーWi-Fi 拡張と同時に地域の翻訳や通訳ニーズに応えるための「翻訳 Bank」の形成
- ・非常時の翻訳・通訳需要に応えられる「エンジン」の準備と、平時にその「エンジン」を地域コンテンツの翻訳等に充てるプログラム

1-5 V-Low マルチメディア放送の防災・減災と Gateway App（V-Low アプリ連携分科会関連）—20 分

プレゼンター：V-Low マルチメディア放送自治体連絡会（芝勝徳神戸市外国語大学教授）

- ・V-Low マルチメディア放送の災害情報提供システム・受信端末のビジョン（Wi-Fi 端末との関係を含む）

- ・今年放送が始まる V-Low マルチメディア放送そのものの事業計画
- ・V-Low マルチメディア放送と「おもてなしアプリ」の連携による互恵

=昼休み= (12:20~13:20)

Part2 (13:20~15:20) : GAJa として自治体に参加を提案したい取り組みを紹介

2-1 午後から参加される方々のための、午前の部 (Part1) の「まとめ」 -10 分

プレゼンター：事務局

2-2 「おもてなしアプリ」のシステム開発の現状と今後の展望 -20 分

プレゼンター：フューチャーリンクネットワーク (システム開発担当)

2-3 多言語災害情報提供の提案 (災害情報の整理・伝達手段検討分科会関連) -30 分

プレゼンター：災害情報の整理・伝達手段検討分科会主査 (宇田川真之 人と防災未来センター主任研究員)

- ・多言語災害情報提供のために GAJa が開発中のシステムの説明
- ・テンプレート文例の現状と展望
- ・自治体が利用できるメッセージングサービスとエリア限定配信
- ・大使館等が利用できるメッセージングサービスと安否確認

2-4 バスロケーションシステムと共通アプリ基盤の導入の提案 (V2X ユニット利活用検討分科会関連)

-30 分

プレゼンター：事務局

- ・福島県いわき市等での導入事例の紹介
- ・アドホックネットワークや直接広報、車内 Wi-Fi やサイネージ等の応用アプリケーションの紹介
- ・Gateway App との連携イメージ

2-5 在住外国人との共生や日本人への行政情報サービスに共通アプリ基盤を利用する提案

(オープンデータアプリ分科会関連) -30 分

プレゼンター：オープンデータアプリ分科会主査 (下山紗代子 一般社団法人リンクデータ代表理事)

- ・共通アプリ基盤上のアプリを全国の自治体等で使えるようにする生産・流通・消費の取引市場の形成
- ・優れたソフト開発者によるアプリ開発を応援するインキュベートの仕掛け
- ・全国どこでも使えるアプリの開発・提供によるオープンデータ推進と市民の行政参加
- ・自治体専用アプリページなど、Gateway App 上での工夫

=Break= (15:20~15:40)

Part3 (15:40~17:10) : パネルディスカッション —90分

テーマ : 「自治体・地域に求められるトータルなメディアデザインと GAJa の取り組み」

ガラケーからスマートフォンへと時代が変わる中で、災害情報伝達をはじめとするアプリ利用の新しい可能性や、自治体・地域から見た GAJa の活動の意味と課題についてモデレーターに問題提起をお願いします。その問題提起を基調に、フロアに参加している自治体からの質問も交えながら議論を進めていただきます。各自治体には、それぞれの自治体の取り組みをディスカッションの中で簡単に紹介いただく予定です。

モデレーター : NHK放送文化研究所メディア研究部主任研究員 村上 圭子

パネリスト :

- 1) ICT を利活用して情報伝達を積極的に行っていこうとされている、神戸市、大阪市、加古川市の3市
- 2) Part1 と 2 のプレゼンター (参加が可能な方々)
- 3) 総務省電気通信事業部長 大橋 秀行
- 4) GAJa 事務局長 小松崎 道夫

Part4 (17:10~17:30) : GAJa への参加案内 —20分

プレゼンター : 事務局